

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）における 外国企業協会（FBDA）の概略

外国企業協会首席代表 ロジャー・バレット

設立背景

協会名の選定作業はその名称から活動内容が理解できるように慎重に行われた。協会の存在意義について関心を示す人たちは大勢いるものの、一般的に朝鮮民主主義人民共和国（以下 北朝鮮）と「ビジネス」を結びつけられないのが現状である。世界中の新聞メディアは北朝鮮国内の食料不足、悪天候、政局に話題を絞るため、外国の読者はそのような記事だけを読むことになる。そのような状況下では、FBDAという名称から北朝鮮での「ビジネス」とビジネスの機会が容易に連想されるであろう。そして重要なことは、世界の人々が北朝鮮に抱くイメージに影響を与えることである。

協会の設立目的と設立母体について説明すると、1998年にアジアを基盤とする多国籍企業10社が集まり設立され、「北朝鮮でビジネスを行っている者同志のクラブ、ネットワークを設立しよう」が合言葉となった。我々は定期的に昼食会を開き、情報と連絡を共有することに合意した。北京に事務所を開設し、現在、約45社の会員があり、業種は貿易、工業、その他産業で規模も大小様々な企業・団体組織から構成されている。（別紙資料参照）

活動趣旨

FBDAが北朝鮮と世界のビジネス界の架け橋をめざす目的は2つある。1つは北朝鮮で活動するビジネスを支援し、成功に資することである。2つめは北朝鮮を世界のビジネスの表舞台へ導くことである。

FBDAは政治色と党派色を持たない会員制のビジネス組織であり、加盟者の出資金と会員活動を資金源とする。

機構

FBDAの本部は北京にあり、主な役職者は代表ロジャー・バレット（イギリス出身）、マーケティング部長 馬然（ハルビン出身）、マーケティング・メディア部長 呉思屏（アメリカ出身）、マーケティングサポート部長 マキシム・コズロフ（ウラジオストク出身）である。

活動内容

我々が企業家を会員として迎え入れたことによって、北朝鮮の市場に関心を持っているものの、北朝鮮への進出方法を知らない人たちの興味を引き出すことに成功した。ビザの手続きとピョンヤンまたは羅津・先鋒（現在、羅先市に改称）の訪問手配の業務も行っている。一番重要な活動

はピョンヤンや他の都市のビジネス拠点などの北朝鮮国内の適当な相手を紹介することである。これはFBDAと良好な関係を構築した対外貿易省の尽力により可能となった。FBDAはピョンヤンに7名、羅先市に2名の事業経済代表者を派遣している。

事業経済代表者のほかに、FBDAは北京を基盤とする会員の集会を定期的に開催することにした。特に力を入れている活動はFBDA主催の昼食会である。この昼食会は関係者がお互いに面会し、情報を交換する場である。ゲストによるスピーチは北朝鮮での成功体験について話してもらうことと、参加者と体験を共有することを目的にしている。

北朝鮮での商業、ビジネス活動の情報収集は容易でないため、我々はニュースレターを通じて貿易機会とプロジェクトの機会を推進している。ヨーロッパ、アジア、オーストラリアの会員企業はパートナーを求めており、日本企業とパートナー関係を結ぶことができれば繊維産業、道路（アスファルト・レンガ道路）建設業、他の業界の会員にも歓迎されるであろう。

期待と成果

FBDAは会員、友好関係者、様々な関係団体へ情報、連絡を与える重要な発信源となっている。FBDAは北朝鮮でのビジネス機会を常に前向きに探っているが、正確にその期待値を設定する必要がある、これこそがビジネス成功のために不可欠な部分である。

朝鮮半島で農業と産業の再興が成功したのはずっと以前のことである。北朝鮮は最近、外交活動において成功をおさめている。朝鮮半島内の関係が基本的に改善しただけでなく、北朝鮮とのビジネス・貿易関係を発展させるため、イタリア、フィリピン、オーストラリア、イギリス、ドイツ、カナダなどが国交を結ぶが、現在、国交正常化に向け交渉中である。対外関係の改善によりビジネス・投資環境が好転し、世界中の企業がFBDAの活動に関心を持つようになったことは喜ばしいことである。その結果、現在、FBDAは北京のスタッフを増員しようとしている最中である。

現在の状況

北朝鮮における現在のビジネス環境を正しく認識することは、重要なことであろう。そこで、現状分析をまとめると以下の通りである。

まず第1に、ピョンヤンや観光地を訪れて驚くことは、現地の人々の英語、フランス語、日本語、ロシア語、中国語を使用する会話力と文章力のレベルの高さである。

第2に、一般的に北朝鮮でビジネスが発展すると韓国企

業が一番大きなメリットを享受すると考えられているが、それは状況を正確に理解していない誤った考え方である。世界中どの国も貿易相手国を1国に限定したくないと考えるであろう。北朝鮮は多様な産業とその発展の機会を活用するために、貿易相手国の専門技術と多様な貿易相手国の必要性について認識している。

3番目に北朝鮮の人々は世界のすべての国々とビジネス・貿易関係を発展させることに関心を持っている。中国に比べ北朝鮮には競合企業が少ないため、北朝鮮は多くの面であまり複雑になっていない。

将来の展望

様々な産業に多くのビジネスチャンスがある。北朝鮮には鉱物資源、天然資源、質の高い労働力がある。より良好な貿易条件を獲得する能力、外交政策と貿易相手国の増加により生み出されるビジネスチャンス、それらの波及効果もたらす投資機会は揺るぎ無いものである。

それまでには時間を要するであろう。着実な進展が世界各国、国際機関、民間組織から資金提供の増加という形で起こるとFBDAは考えている。UNDPは民間部門の専門家、外国政府からの資金、UNDP、UNIDOの援助による人材育成と軽減化などを結びつけることにより、「利益を生み出す輸出産業」をサポートする計画を持っている。最近の動きとして、世界銀行、アジア開発銀行のような国際金融機関が北朝鮮に対し、将来の加盟に含みを持たせて前向きな態度を取っていることから、上記のような着実な進歩と発展の可能性が高くなっている。

日本のビジネス界の参加への期待

世界各国の企業がFBDAの会員になっているが、会員の50%はヨーロッパ、1/3がアジアで占められている。FBDAは日本企業の加盟と日本のビジネス界が深くかかわってことを歓迎する。現在、ピョンヤンにおけるホテルの合併事業、貿易、衣料生産、海産物の開発に日本企業が参加し、活動している。FBDAの会員の一部は北朝鮮でのビジネス発展のために、日本または他のアジア諸国からパートナーを探している。日本と北朝鮮には隣国の言葉が話することができる人材が多く、成功している企業の発展に寄与している。

FBDA会員のある企業は日本がパートナーとして積極的に参加することを望んでおり、この企業は羅津・先鋒と中国の延吉、ロシアのウラジオストク間の航空路開設を目指している。この航空路開設により日本から羅津・先鋒経済貿易地帯や名勝地の白頭山へのアクセスが飛躍的に向上す

るであろう。

羅津・先鋒経済貿易地帯における航空路サービス

羅津・先鋒経済貿易地帯は自然の原形が残っており、北朝鮮、中国、ロシアの三国が地理的に接する場所に位置している。しかし、輸送インフラが脆弱なため、貿易と観光の発展は遅れている。

過去3年、私は合併事業として、羅津・先鋒と近隣の中国、ロシア間の空路開設に向けて尽力している。この空路開設に向けて2つの段階が想定されている。(別紙資料参照)

まず、第1段階は羅津・先鋒にある既存のヘリポートを利用し、乗客を延吉とウラジオストクへ運ぶヘリポートサービスである。延吉までの所要時間は35分、ウラジオストクまでは1時間を要する。このサービスは2001年夏の操業を予定している。

第2段階は、小型の空港を利用する小口の輸送サービスである。そのための空港施設は2002年春の完成予定である。

この航空事業は北朝鮮の国営航空会社高麗航空との合併事業として行われる。この事業が日本の観光産業にもたらす経済効果はかなり大きいものである。羅津・先鋒、近隣の白頭山と七宝山(羅津・先鋒から両山まで飛行時間は45分)までの所要時間は既存のルートに比べ、大幅に時間が短縮される。その結果、経済貿易地帯である羅先市の開発に大いに貢献することが期待されている。

航空サービスの向上と乗客(ビジネス客と観光客)の増加を図るため、日本の投資家と観光業者の積極的な参加が期待されている。

この事業は潜在的な利益に加え、やりがいと得られる貴重な投資機会である。このプロジェクトが興味深く、普通と違うのはバイオニアとしての役割が期待されているからである。プロジェクトの特徴を挙げると以下の通りである。

北朝鮮(Korea)、中国(China)、ロシア(Russia)が重なり合う地域で航空サービスが操業する。この事業が“KCR-J航空サービス”と呼ばれ、日本(Japan)の頭文字“J”を含む理由は、日本がこのサービスの主要な市場となるからである。

プロジェクトは関係各国が協調した時に開始される。

合併事業は朝鮮半島で平和と和解が進んだ時期に開始さ

れるであろう。昨年、朝鮮半島と世界の人々は北朝鮮のピョンヤンで北朝鮮と韓国の両首脳が会談するという劇的な出来事に感銘を受けた。

北朝鮮の国営航空会社がパートナーとして参加。

未開の地で航空サービスを開始し、サービスの向上を図る。航空サービスの導入により、以下のように移動時間が大幅に短縮される。

延吉(中国)~羅津が道路移動で5時間から航空便で35分。

ウラジオストク(ロシア)~羅津が道路・列車移動で12時間以上から航空便で1時間。

羅津から45分の航空移動で名勝地の白頭山と七宝山に行くことができる。白頭山は世界中の朝鮮民族にとって聖なる場所であり、韓国の国民も近い将来、そこを訪れることができるであろう。

羅津の辺りは美しいビーチが多く、最近5つ星のホテルとカジノがオープンし、主要な観光施設が整っている。中国東北部の内陸に位置し、人口6,000万人を占める吉林省と黒龍江省では大半の人々が海を見た経験がない、または外国へ行った経験がない。中国経済と旅行・観光業の発展にとってこの事業は重要な機会となる。

この地域は海産物が豊富で、マツタケ、朝鮮人参が採れる旅客、郵便物、貨物(新鮮な海産物など)を空輸する。日本は旅客と貨物で主要な市場である。現在のウラジオストクへのルートが更に関心を集め、便利な寄港地となる。(ウラジオストクは12年前まで、ロシア太平洋地域の軍事上の基地として秘密にされ、立ち入りが禁止されていた。)

この事業により観光業が発展すると共に、羅津・先鋒に関心が集まり、この地域の他のビジネスと軽工業の一層の発展へつながるであろう。過去20年の間、この経済貿易地帯への関心が着実に高まっている。朝鮮半島と近隣諸国及び、朝鮮半島内の関係が安定していることで、この地域が観光スポットと企業の進出先として一層、重要な存在となっている。

この事業が実際に稼働する春夏まで待とう。この事業を支持するためには、北朝鮮の有名な諺である“百聞は一見に如かず”という表現が適切であろう。

[翻訳ERINA]

別紙資料

Membership by Company Nationality
(会員企業の国籍)

| | Share |
|---------------------|-------|
| Europe (ヨーロッパ) | 52% |
| Asia (アジア) | 32% |
| USA (アメリカ) | 10% |
| International (多国籍) | 6% |

Members Location (会員所在地)
(Decision Members Location (政策決定会員の所在地))

| | Members |
|--------------------|---------|
| H.K. (香港) | 5 |
| Bangkok (バンコク) | 2 |
| Beijing (北京) | 15 |
| Japan (日本) | 1 |
| USA (アメリカ) | 2 |
| Seoul (ソウル) | 4 |
| Pyongyang (ピョンヤン) | 1 |
| Shanghai (上海) | 2 |
| Singapore (シンガポール) | 1 |

RAJIN HELISERVICES: FLOWCHART

羅津ヘリサービスフローチャート

